



# 2019年度 決算説明資料

2020.5.22

明治ホールディングス株式会社

1. 新型コロナウイルスの影響に関して
2. 2019年度総括
3. 2020年度見通し
4. 将来の成長に向けて

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、薬品(開発中の製品を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

# 1. 新型コロナウイルスの影響に関して

## ● お客さまに対して

- 生活に必要な食品や医薬品を製造するメーカーとしての供給責任を果たすべく、国内外の全ての工場生産活動を続けています。

## ● お取引先に対して

- お客様への商品供給のため、原料を供給していただくサプライヤーや販売していただく卸売業や小売業の皆様と連携を強化させていただいております。特に学校給食用の供給停止と業務用の需要減により需給が悪化している生乳に関しては廃棄しないために最大限の努力を行ってまいります。

## ● 従業員に対して

- 従業員とその家族の安全のため、原則テレワークでの勤務体制としており、感染防止に努めています。
- 工場での生産や商品需給に関わる従業員については、マニュアルに従って衛生管理を徹底し、安全な労働環境の整備を行った上で業務を行っています。

## ● 地域社会に対して

- フードバンク団体への製品の寄贈などを通じて継続的に支援をしてまいります。

## ● 株主・投資家に対して

- 適切な情報開示に努め、業績に大きな影響が発生する場合は速やかに開示します。また、財務の安全性に配慮しながら計画の遂行に努めてまいります。

# 新型コロナウイルスの影響に関して①生産・販売への影響



- **生産面** ・ 食品、医薬品ともに国内外の全ての工場が稼働、現在のところ大きな影響はない
- **販売面** ・ 食品は生活必需品の売れ行きが好調だが、外出自粛により業務用やスポーツ栄養はマイナス
- ・ 医薬品は外来受診患者の減少が影響

		売上高前年同月増減率(%)				補足	
		1月	2月	3月	4月		
国内	食品 ※1	発酵 Dairy	△4.8	+6.2	+7.4	+5.8	プロバイオ大幅伸長、ヨーグルトやおいしい牛乳も好調、ザバスミルクの伸び鈍化
		加工食品	△0.8	+3.0	+1.1	△6.6	調理食品大幅伸長、業務用食品大幅ダウン
		菓子	△4.0	△6.1	△11.9	△14.6	前期のメディア露出の反動(チョコレート効果)、市場全体も前年割れ
		栄養	+14.9	+13.3	+3.7	△6.9	乳幼児ミルクが伸長、スポーツ栄養が3月以降ダウン
	医薬品 ※2	先発品	△5.4	△22.1	△12.2	△26.1	2月は4月からの薬価改定による卸店の買い控えが影響、3月以降は外来受診患者減により花粉症や生活習慣病などの処方薬がマイナス
		ジェネリック	△9.8	△32.4	+2.3	△15.3	
海外	食品	市販商品は大きな影響なし、中国の業務用チルド牛乳も徐々に回復					
	医薬品	インドにおいてロックダウンがあったが、在庫により対応し大きな影響はない					

※1: 明治単体の実績

※2: Meiji Seika ファルマ単体の実績、先発品にはワクチンを含まない

# 新型コロナウイルスの影響に関して②業績への影響

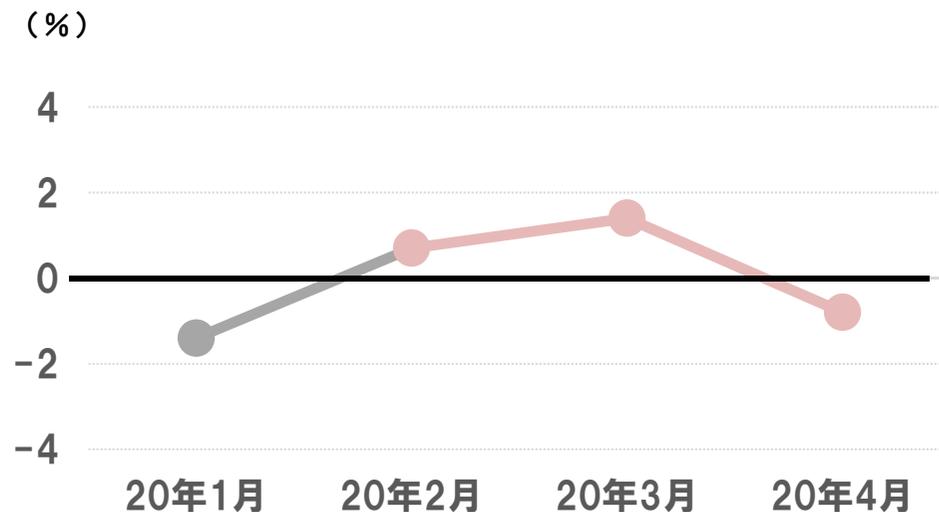


- 4Qの連結ベースの業績は売上高は前期並み、営業利益は増加。製品ミックスの改善や経費減が寄与
- 2020年2月以降の売上高の推移は、不調カテゴリーを好調カテゴリーがカバー、グループ全体ではプラスマイナス2%の範囲で推移(主要事業会社3社単体単純合算)
- 当面は同様の傾向が続くことを想定。商品の安定供給と費用の管理を徹底

19年度4Q売上高・営業利益  
(連結ベース)

(億円)	実績	前年同期比
売上高	3,015	Δ0.7% Δ21
営業利益	223	+19.1% +35

売上高前年同月増減率  
(主要事業会社3社単体単純合算<sup>※1</sup>)



※1: 明治、Meiji Seika ファルマ、KMバイオロジクスの単体の売上高の単純合算値で計算

## 2. 2019年度総括

## 2019年度 連結決算のハイライト

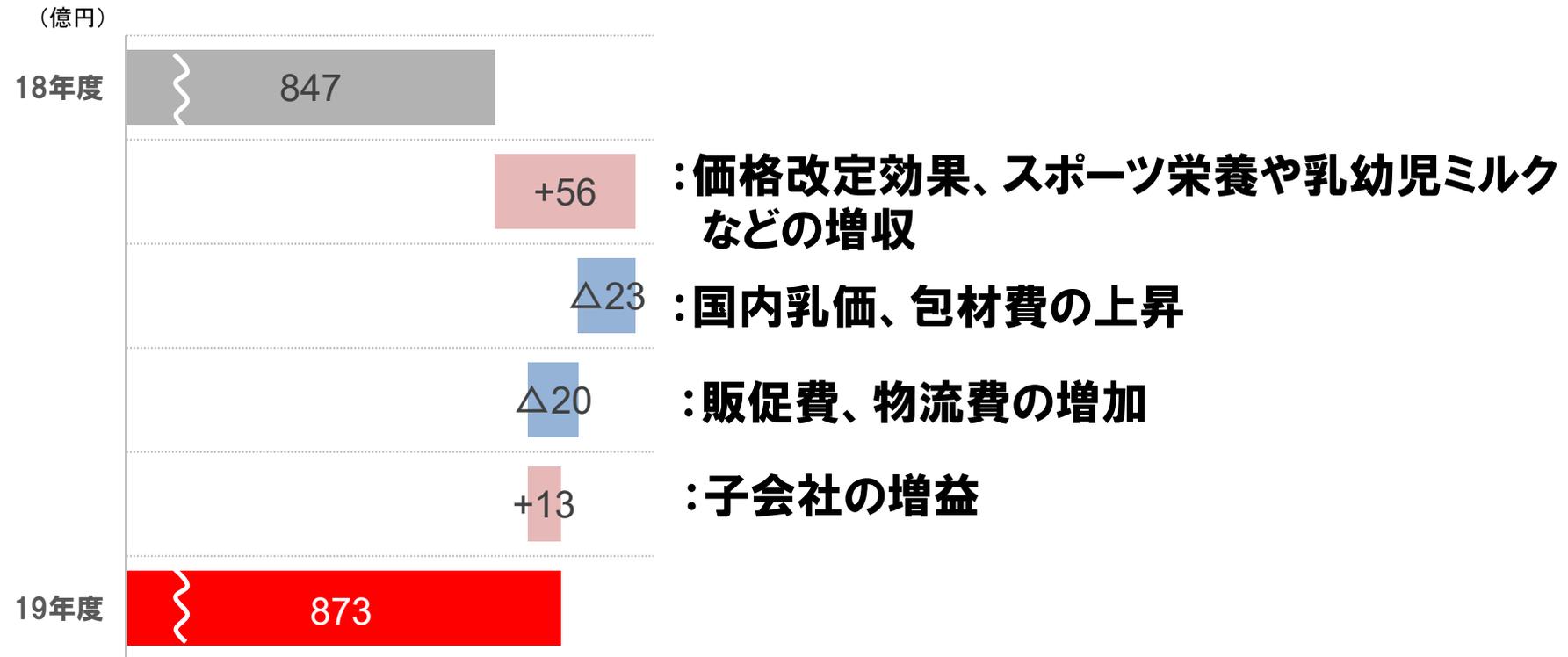


(億円)	18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績		
				前年同期比	計画比
売上高	12,543	13,090	12,527	Δ0.1% Δ16	Δ4.3% Δ562
営業利益	983	1,080	1,027	+4.4% +43	Δ4.9% Δ52
営業利益率	7.8%	8.3%	8.2%	+0.4pt	Δ0.1pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	618	675	673	+8.8% +54	Δ0.3% Δ1
EPS	426.61円	465.34円	464.04円	+37.43円	Δ1.30円
1株当たり配当金	140円	140円	150円	+10円	+10円
配当性向	32.8%	30.1%	32.3%	Δ0.5pt	+2.2pt
ROE	12.2%	12.3%	12.4%	+0.2pt	+0.1pt
設備投資額	712	991	711	Δ0.2% Δ1	Δ28.3% Δ280

- 売上高は前期並み、営業利益は前期比で増益となるも計画には未達
- 親会社株主に帰属する当期純利益は前期比増益でほぼ計画通り

(億円)	18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績	19年度実績	
				前年同期比	計画比
売上高	10,566	10,900	10,495	△0.7% △70	△3.7% △404
営業利益	847	900	873	+3.0% +25	△3.0% △26

## 営業利益増減分析



(億円)	18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績	19年度実績	
				前年同期比	計画比
売上高	1,986	2,205	2,043	+2.9% +56	△7.3% △161
営業利益	142	185	159	+12.2% +17	△13.6% △25

### 営業利益増減分析

(億円)

18年度

142

△35

+19

△19

+19

+33

19年度

159

**:薬価改定の影響**

**:ワクチンの販売増**

**:原価低減、前期の生産体制の変更に伴う  
在庫評価替えによる差異**

**:商品廃棄損や研究開発費の減少 など**

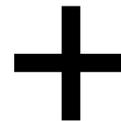
**:海外子会社の増益、メドライクのれん償却費の  
減少、KMバイオロジクスの連結影響 など**



## 3. 2020年度見通し

## 中計重点方針

1. コア事業での高シェア・高収益の実現
2. 海外市場での成長基盤の確立に向けた積極的な事業拡大
3. 健康を軸とした新たな価値領域での仕掛け
4. 構造改革の継続的な実行と個別事業課題の克服
5. 経営基盤の進化とサステナビリティの推進



## コロナへの対応

### 現在

- 需要への対応
  - ・ 健康志向商品や巣ごもり消費に対応する食品の安定供給
  - ・ 抗菌薬、ワクチンなどの医薬品の安定供給

### アフターコロナ

- 消費低迷への対応
  - ・ コストダウンの徹底
- 需要喚起対策
  - ・ 予防・健康意識の高まり
  - ・ 外出自粛後の運動機会増加、行楽需要

# 2020年度 通期連結見通し



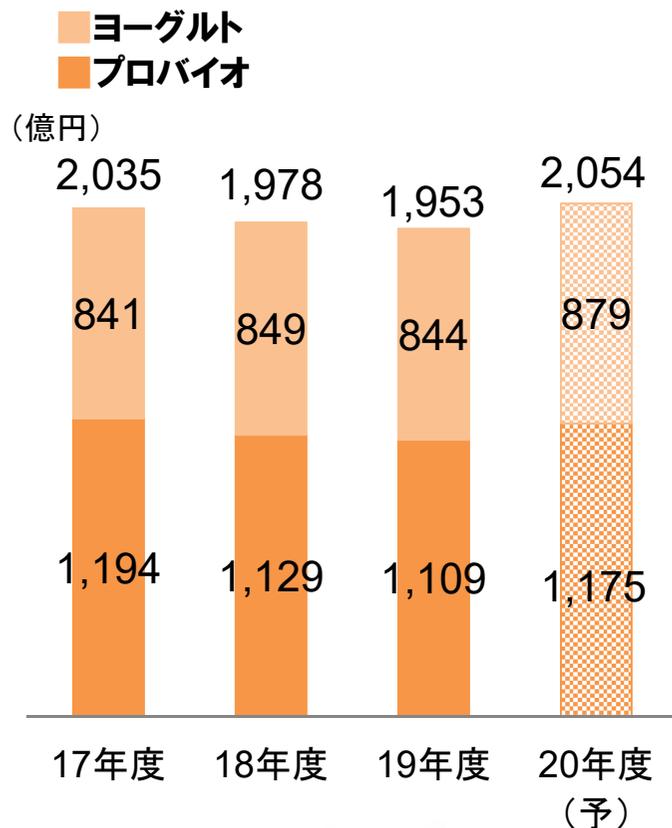
(億円)	19年度 実績	20年度 計画	前年同期比
売上高	12,527	12,530	+0.0% +2
営業利益	1,027	1,100	+7.1% +72
営業利益率	8.2%	8.8%	+0.6pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	673	695	+3.2% +21
EPS	464.04円	479.12円	+15.08円
1株当たり配当金	150円	150円	—
配当性向	32.3%	31.3%	△1.0pt
ROE	12.4%	12.0%	△0.4pt
設備投資額	711	852	+19.9% +141
営業CF	1,141	1,209	+67
フリーCF	432	12	△420

(億円)	19年度実績	20年度計画	前年同期比
売上高	10,495	10,414	△0.8% △81
営業利益	873	930	+6.5% +56

アサヒプロイラーなど  
3社の連結除外影響  
189億円



当社売上高



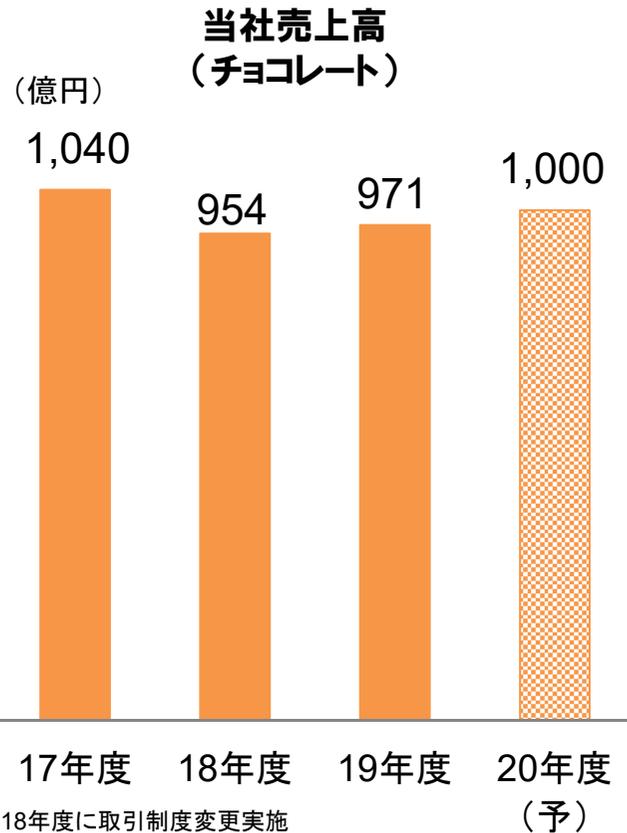
プロバイオ

- 予防・健康意識の高まりに対応。価値訴求の強化により持続的な成長を目指す

- R-1 大容量タイプ(336g)の新たな価値提案
- LG21 乳酸菌の機能情報発信強化
- PA-3 } 機能性表示食品として価値
- 素肌のミカタ } 訴求、情報の浸透を図る

ヨーグルト

- ブルガリアプレーンヨーグルト4品の販促提案の強化
- 付加価値商品の定着を図る



### ● 健康志向チョコレート

- ・「チョコレート効果」の健康価値を訴求しブランド認知を更に拡大
- ・大袋の供給能力アップによる売上拡大
- ・「オリゴスマート」の機能訴求を強化

### ● スペシャルティチョコレート

- ・大人の嗜好品としてのカカオの持つ価値を徹底訴求
- ・「ザ・チョコレート」は今秋に向け大幅な規格変更を計画中

### ● その他チョコレート

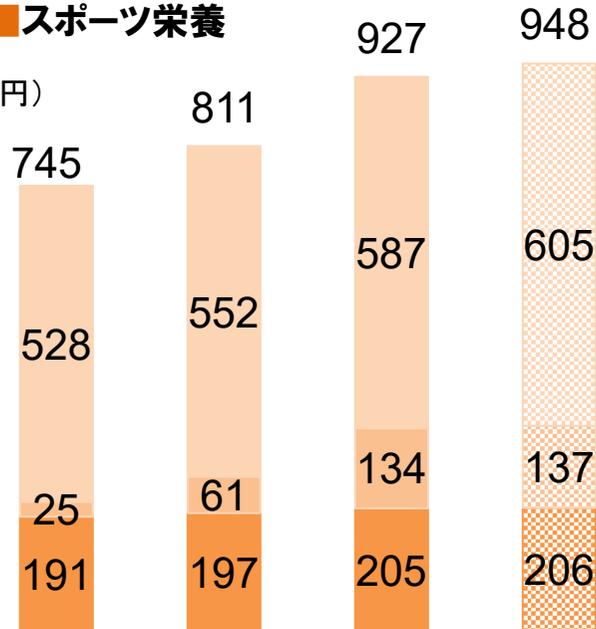
- ・行楽需要に向けたベーシックチョコレートや子供向けチョコレートの展開



当社売上高

- 栄養食品(乳幼児ミルク+流動食)
- ザバスミルク
- スポーツ栄養

(億円)



17年度 18年度 19年度 20年度 (予)

(注)「ザバスミルク」は発酵デリーの売上に含まれる

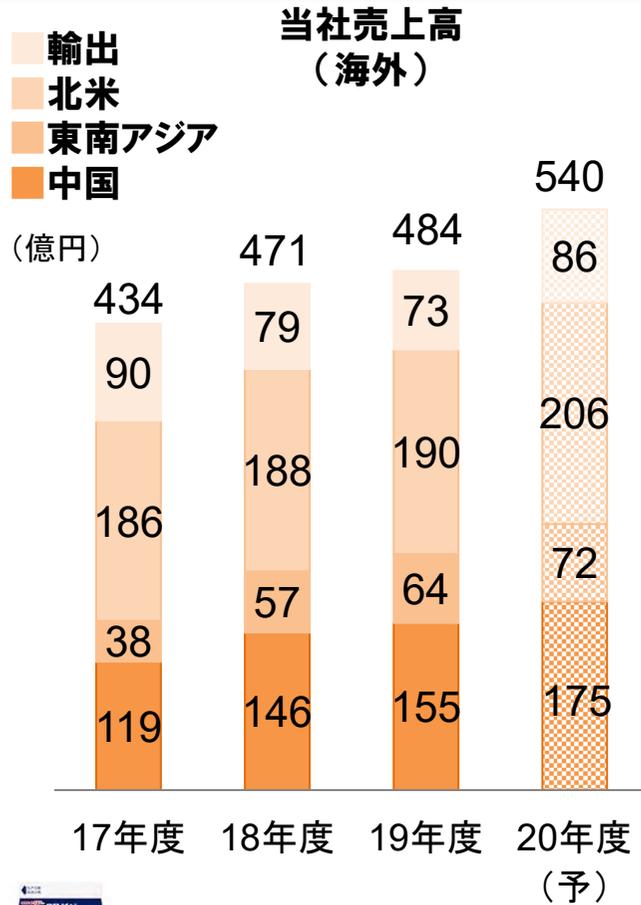


スポーツ栄養

- **スポーツ栄養は、外出自粛による運動不足解消に向け積極拡売を図る**
- 「ザバス」はリニューアル品により品質アップを訴求、ECでの取り組みも強化
- 「ザバスミルク」は女性向けのラインアップを強化

栄養食品

- **乳幼児ミルクは継続的なインバウンド施策実施と液体ミルクの浸透、付加価値品キューブの拡売**
- **流動食は市場拡大以上の成長を目指す**



- **中国**
  - ・ 既存事業の大幅成長とECの強化
  - ・ プロテイン「ザバス」の新規展開

2020年度上期販売開始予定



- **東南アジア**
  - ・ シンガポールを拠点とした菓子の輸出拡大
  - ・ 粉ミルクなど栄養食品を積極展開

- **北米**
  - ・ meijiブランド品の取り組み強化
  - ・ 販売チャネル拡大



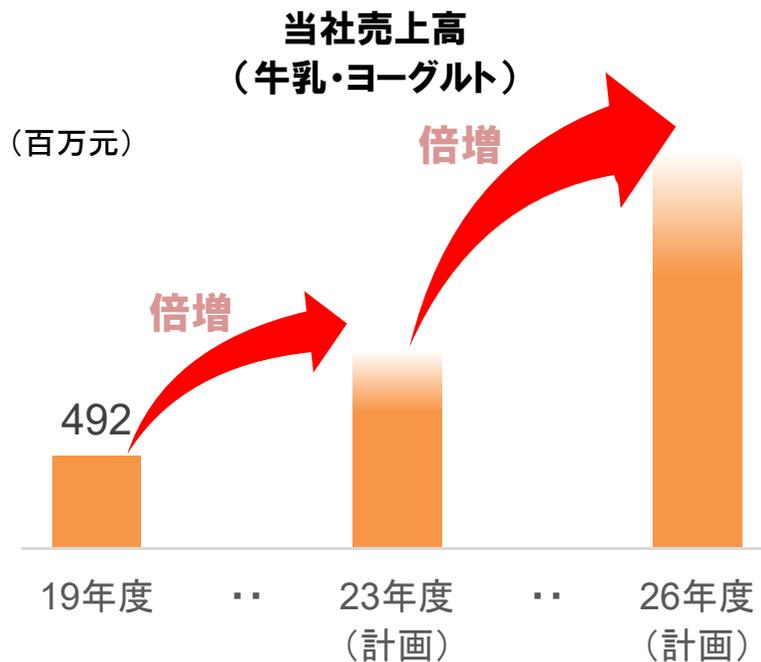
中国



東南アジア



北米



## 積極的な投資により売り上げを拡大

- 2021年春:蘇州工場生産ライン増強
- 2022年度下期:天津工場稼働
- 2026年度までに:第三工場稼働

## オーストアジア社の株式取得

- 投資の目的
  - ・ 生乳の安定調達
- 投資内容
  - ・ 投資金額 約280億円
  - ・ 取得株式 発行済み株式の25%
- オーストアジア社の概要
  - ・ 中国国内で7つの牧場を運営、8万頭の乳牛を保有
  - ・ 生乳生産において高品質かつ高い生産性を実現

## ● 提携の概要

- 欧州市場でのキューブタイプの粉ミルク製造について、当社とダノン社との間で独占契約を締結
- 明治が製造技術を提供、ダノン社が同社ブランドのキューブを発売

meiji × DANONE

## ● スケジュール

2020年6月

### 新会社設立

欧州に明治フードヨーロッパ(仮称)を設立、生産技術支援及び生産設備管理等を実施

2020年度4Q

### テスト販売開始

ダノン社が同社ブランドのキューブタイプの粉ミルクを欧州にて発売

### 生産設備導入

ダノン社の欧州の粉ミルク工場内に、生産設備を導入

2021年度4Q

### 事業評価

1年間の販売の後、更なる事業提携の継続と拡大の可能性を両社で評価

## 1. 付加価値商品の展開

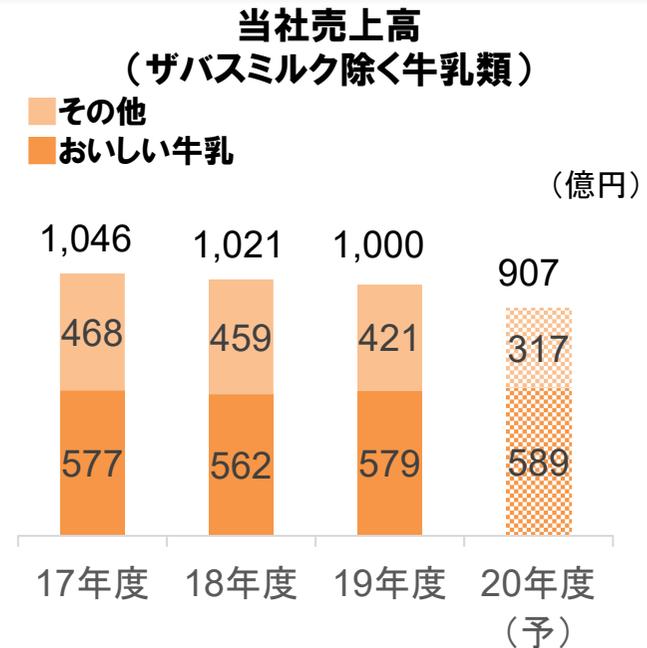
- ・ エッジ容器の価値(遮光性、空気に触れない)を訴求
- ・ 「明治おいしい牛乳450ml」を全国展開
- ・ 「明治おいしいミルクカルシウム」「明治おいしい低脂肪乳」の取り扱い店率の拡大

## 2. 不採算商品の販売中止

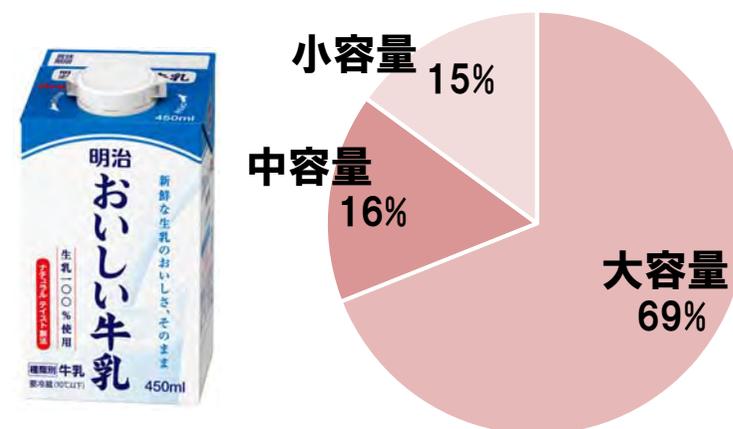
- ・ 「明治牛乳」(2020年3月)
- ・ 「明治ラブ」を段階的に終売

## 3. 生産体制の最適化

- ・ 北陸工場閉場(2019年9月)
- ・ 岡山工場閉場(2020年3月)
- ・ ゲーブルラインは順次撤去



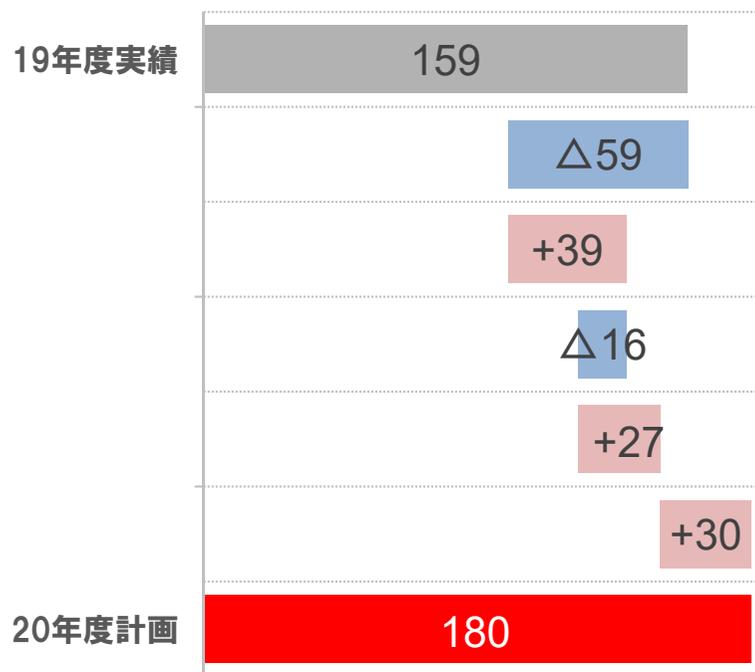
おいしい牛乳容量別構成比



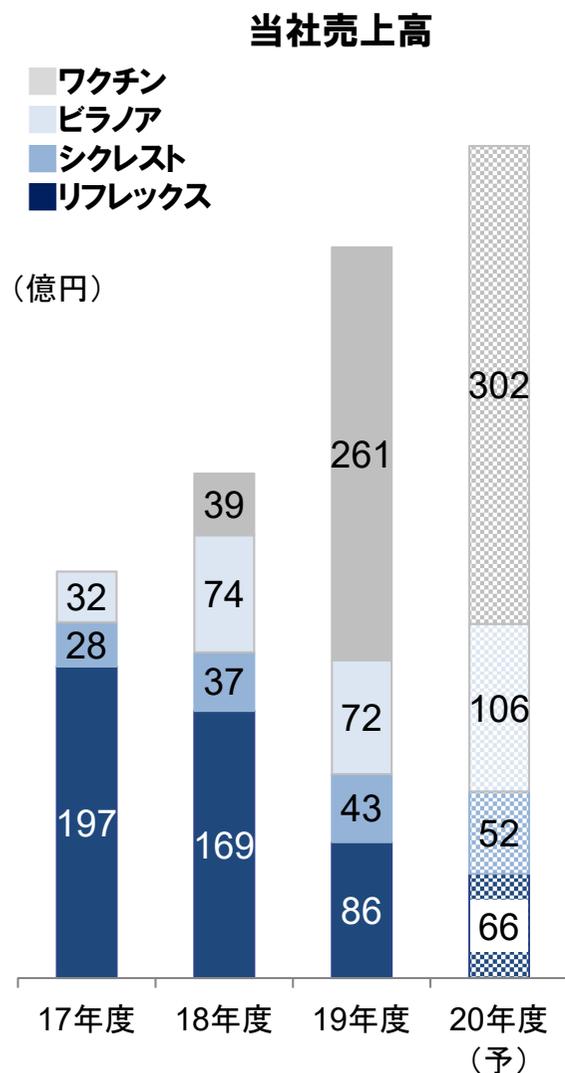
※19年度実績ベース

(億円)	19年度実績	20年度計画	前年同期比
売上高	2,043	2,123	+3.9% +79
営業利益	159	180	+12.6% +20

(億円) 営業利益増減分析

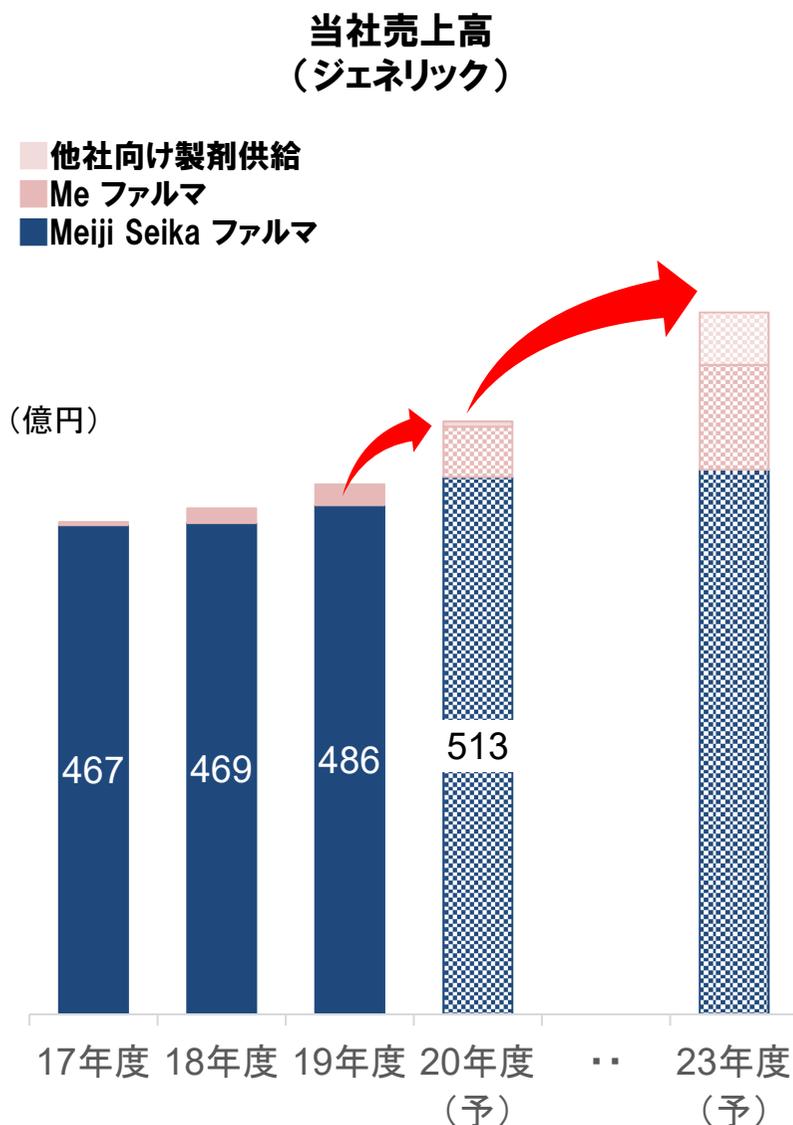


- : 薬価改定の影響**
- : ワクチン、主力医薬品や農薬の増収**
- : 原価低減および18年度の生産体制の見直しに伴う在庫評価替の影響**
- : 一時金の減少、コストコントロール**
- : 子会社の増益など**



(注)「リフレックス」は18年度よりジェネリックを含む

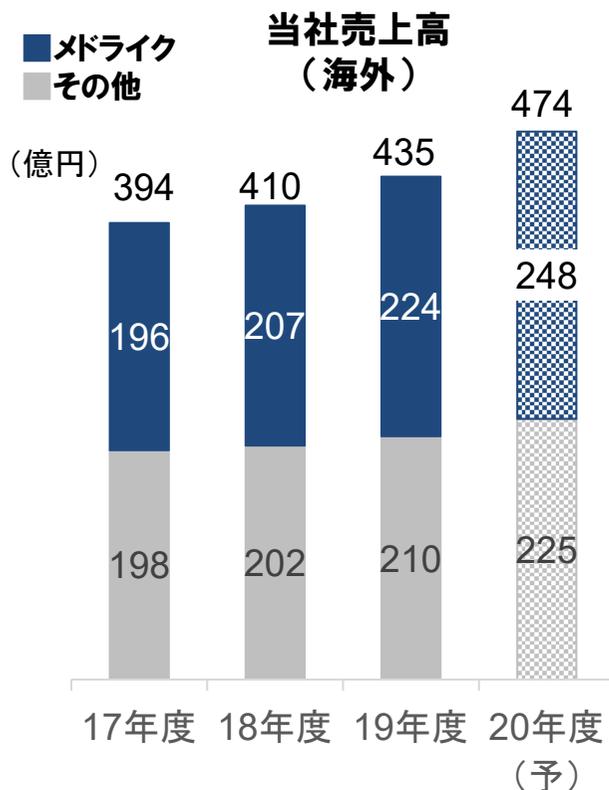
- 販売移管直後で前年実績の少ない1Qで拡売を図る
- 接種意向が高まることが想定される「インフルエンザHAワクチン」は前年以上の供給を目指す
- 定期接種の小児用ワクチンは定期訪問先と訪問件数の増加により継続的にシェアアップを図る
- アレルギー性疾患治療薬「ビラノア」と統合失調症治療薬「シクレスト」により抗うつ薬「リフレックス」の落ち込みをカバー



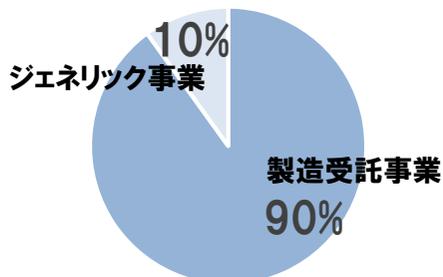
自社販売

他社向け製剤供給事業

- 今後5年間で特許切れにより約2兆円<sup>※1</sup>のジェネリック医薬品への置き換え市場が出現
- 抗菌薬や中枢神経系領域はMRを活用して数量を拡大
- 生活習慣病領域などはメドライクを活用したコスト競争力のある製品で顧客を拡大
- メドライクを活用した他社向け製剤供給事業を本格化
  - ・ 圧倒的な低コストで安定供給を実現
  - ・ 19年度より供給開始、23年度には更なる成長へ



メドライク事業別売上構成比 (イメージ)



メドライク

欧州・アジア

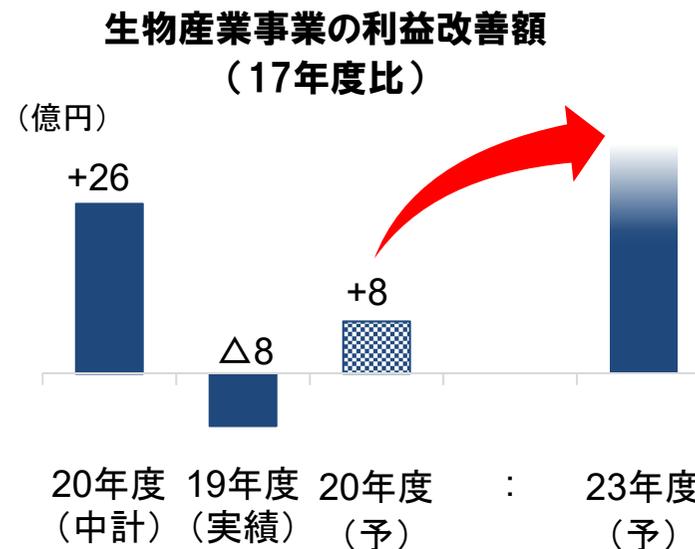
- 人口増加や経済発展により新興国での医薬品需要が高まり、市場拡大が続く
- インド国内工場の生産体制の再構築が進行、増産体制が整う
- 既存顧客からの受注増に加え、新規顧客獲得も進み着実に成長
- EUでのキノロン系抗菌薬の使用規制の影響により、セフェム系抗菌薬「メイアクト」の需要が増加
- インドネシア、タイにおいて自社品の販促を強化、導入品も積極展開し売り上げを拡大

2019年度の概況

- 原薬調達先の操業停止により、いもち病防除剤「オリゼメート」の売り上げが大幅に減少
- 競合剤耐性雑草の拡大とホームセンターへの展開強化により除草剤「ザクサ」が伸長

2020年度の取り組み

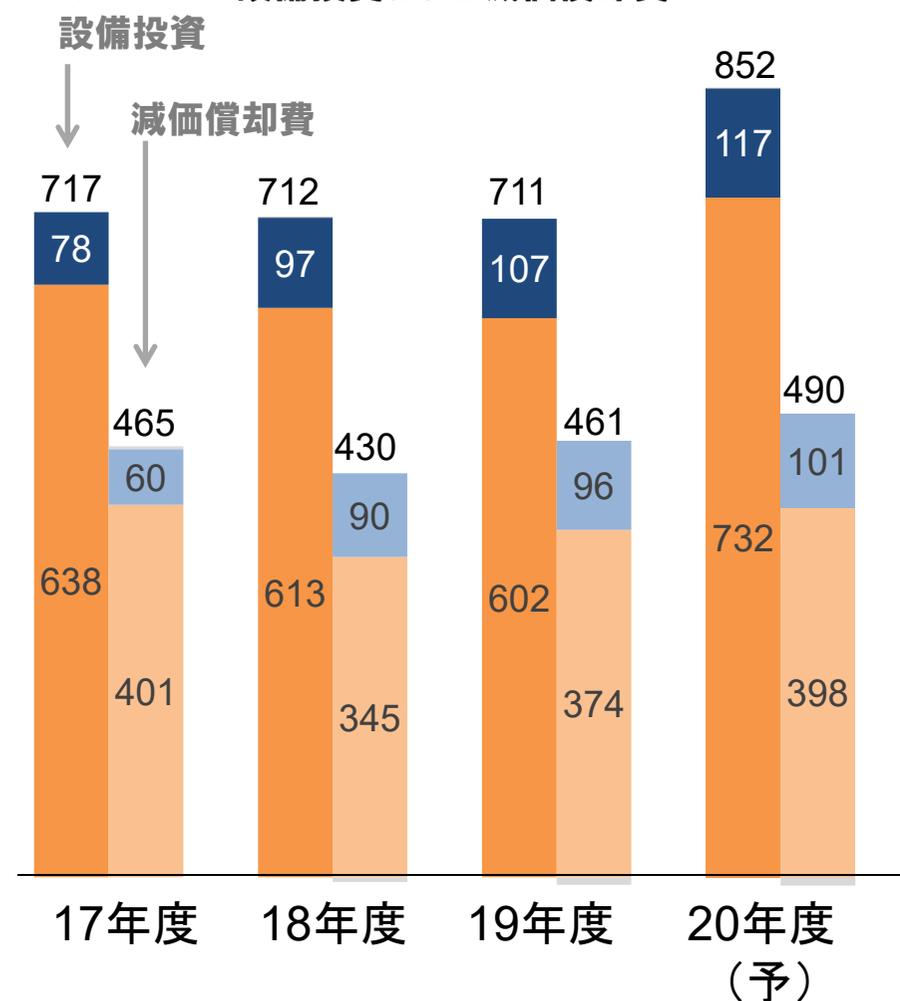
- 農薬原体製造会社「Meiji アグロケミカル」を設立、「オリゼメート」の安定生産に向け本年度中の商業生産開始を目指す
- 新規殺虫剤「フルピリミン」と「オリゼメート」の混合剤の販売を開始、既存薬剤からの置き換えを図る
- インドで、ライセンス先のUPL社の登録取得の推進、販売会社への技術指導を実施



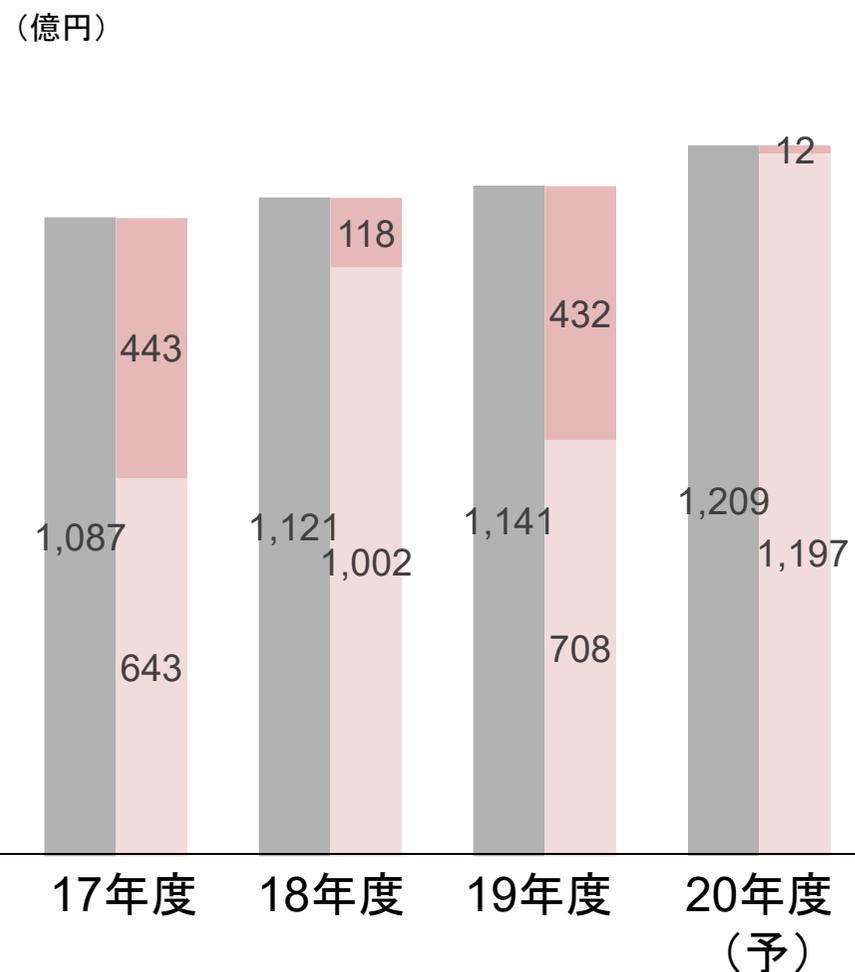
# 2020年度通期 設備投資、減価償却費、キャッシュフロー



(億円) 設備投資および減価償却費



キャッシュフロー

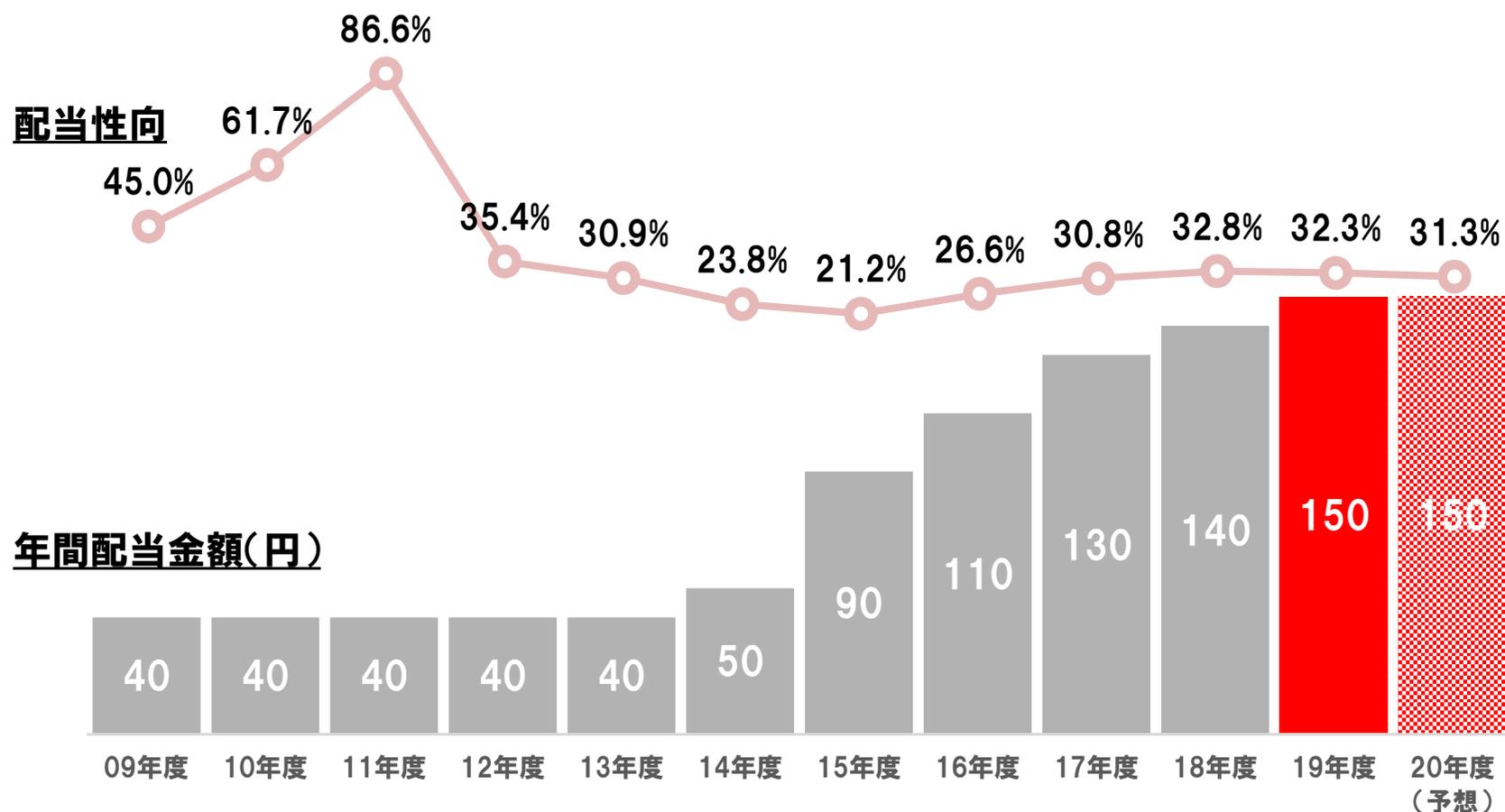


左: 設備投資 (食品, 医薬品, その他)  
 右: 減価償却費 (食品, 医薬品, その他)

営業キャッシュフロー (営業キャッシュフロー, フリーキャッシュフロー, 投資キャッシュフロー)

## 株主還元(配当性向)

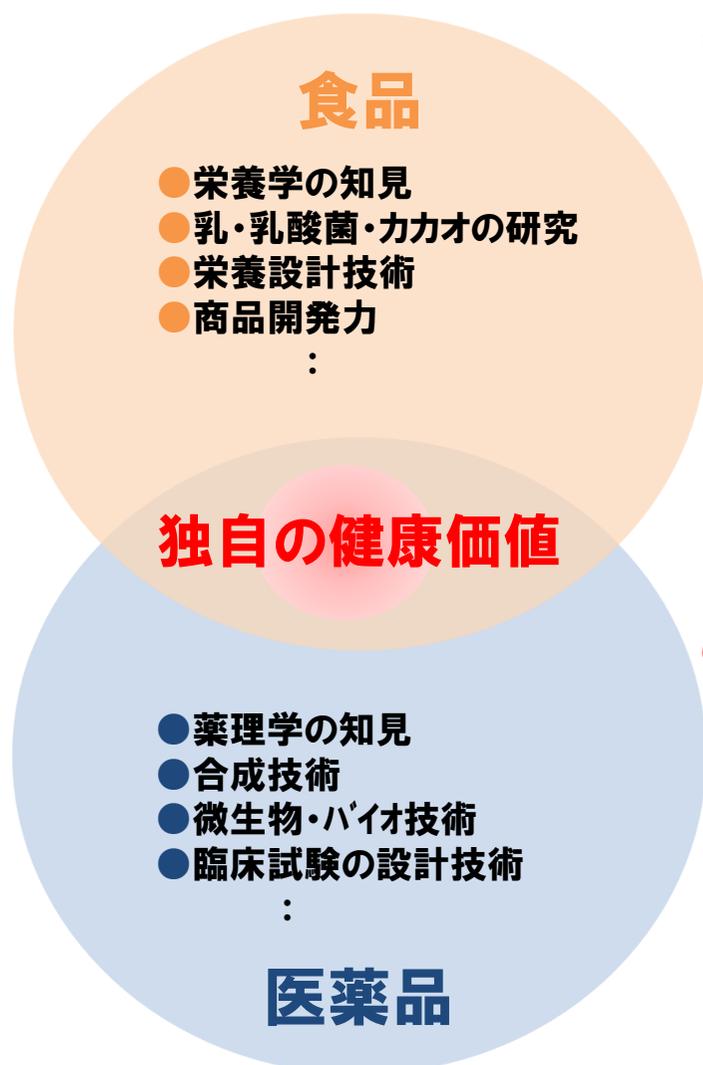
- 2019年度は6年連続増配で150円(配当性向32.3%)
- 2020年度は据え置きの150円(配当性向31.3%)の予定



※ 2015年10月1日で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しており、上記数値はこの株式分割を反映しています

## 4. 将来の成長に向けて

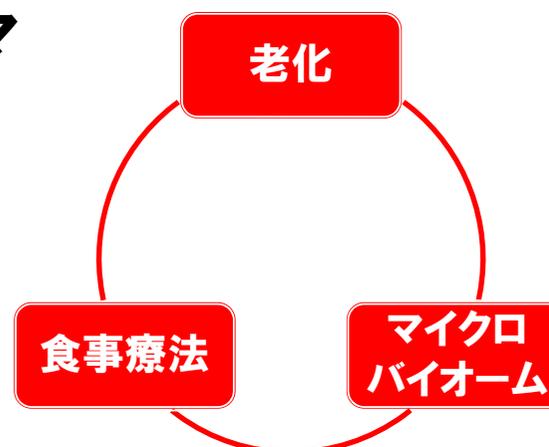
## 独自の健康価値を創造し、社会課題「高齢化社会」の解決に貢献



### ● 価値共創センターのミッション

1. 食品事業・医薬品事業で培った知見を融合した健康寿命延伸につながる独自価値の創造
2. オープンイノベーションの推進による最先端の知識や技術の結集とその活用
3. 新事業開拓や新規技術開発のための人材育成

### ● 研究テーマ



# 持続的な成長に向けて②新たな市場を創造



## ● 新たな市場を創造

### 「明治TANPACT(タンパクト)」

- 現代人のたんぱく質摂取量は1950年代と同水準まで低下
- 「1日+10g」のたんぱく質摂取を提案
- 日常の様々なシーンで補給できる明治ならではのラインアップで展開

(g/日) 「たんぱく質」摂取量の推移



外出を自粛しているお子さまやご家庭に向け、

**お子さまが笑顔になってもらえるようにプレゼントを届けたい**

- 明治グループ社内募金制度「明治ハピネス基金」で集まった募金と明治ホールディングスからの寄付金により実施
- 「明治ハピネス基金は従業員が自発的に参加できる活動で、社会課題を「自分ゴト」として捉えることを目的とした制度
- 今回は1,000人以上の役員・従業員が参加



フードバンク山梨への寄贈の様子

- **寄贈先** 一般社団法人全国フードバンク推進協議会加盟のフードバンク団体のうち30団体
- **寄贈商品** 果汁グミ、アポロ、プッカ、ヨーグレット、ハイレモンの計5種類、合計約10万個
- **寄贈日** 2020年4月15日～24日

# 持続的な成長に向けて④ESGに関する取り組み(環境・社会)

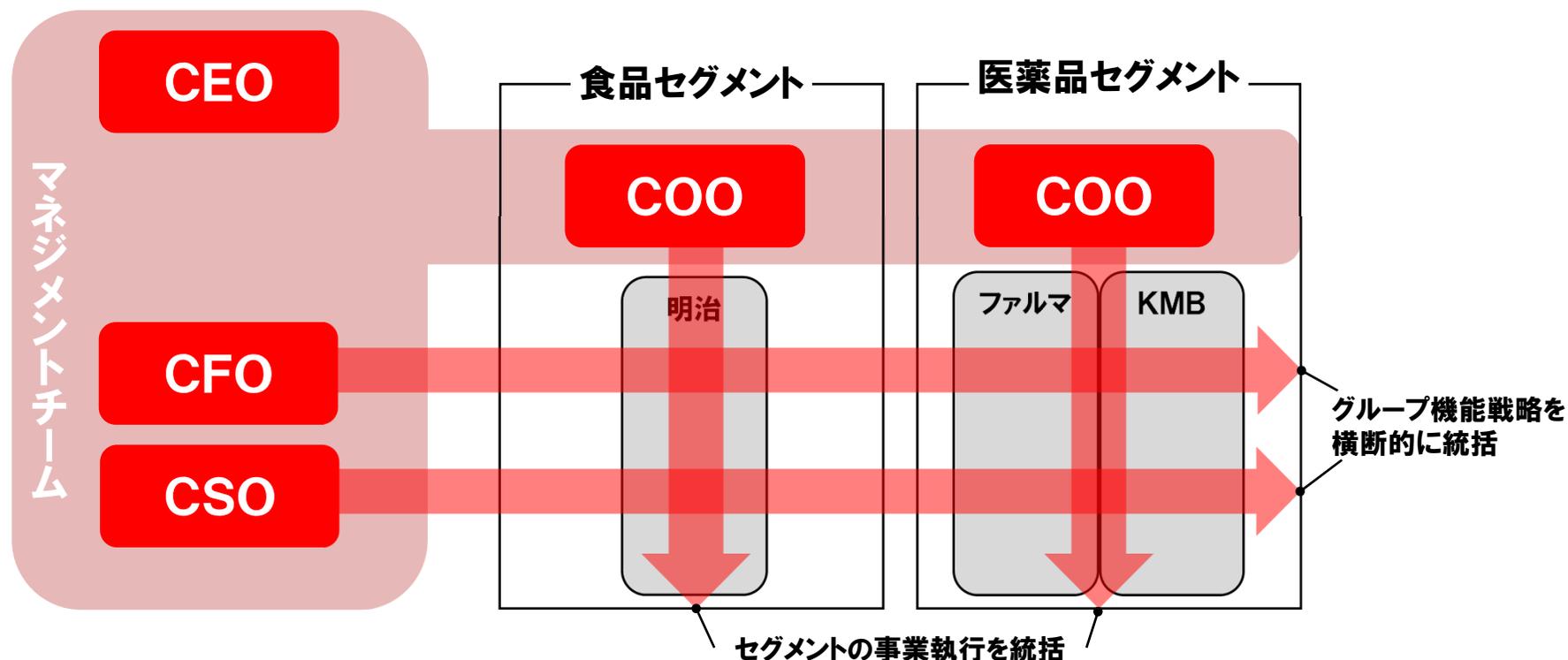


項目	時期	内容
1 TCFD	2020年3月	環境省HPにシナリオ分析公開 「グループTCFD会議」を設置、分析の深掘り を進める 統合報告書や当社HPで開示
	2020年4月	
	2020年8月	
2 プラスチック 使用量削減	2030年度まで (2017年度比)	プラスチック容器包装を25%以上削減 【具体例】 ・小型ペットボトルの軽量化 ・ストローなどにバイオマスプラスチックを使用
3 太陽光発電	2028年まで 2019年度 2020年度	工場への発電設備の導入を積極的に推進 九州工場、明治油脂に発電設備を導入 関西工場、京都工場に導入予定
4 人権	2020年度上期	サプライヤー行動規範策定 サプライヤー向け説明会の実施 サステナブル調達アンケート実施
	2020年度下期	

# 持続的な成長に向けて⑤ESGに関する取り組み(ガバナンス) **meiji**

## ● チーフオフィサー制を導入、これまで以上にグループを一体的に捉えた経営体制へ移行(2020年6月株主総会后)

- CEO (Chief Executive Officer) グループ全体の最高経営責任者として、グループの経営を統括
- CFO (Chief Financial Officer) グループの財務戦略、経営管理を統括
- CSO (Chief Sustainability Officer) グループのサステナビリティ事業戦略、サステナビリティ活動を統括
- COO (Chief Operating Officer) 食品セグメント・医薬品セグメントの事業執行を統括



- **KMバイオロジクスにおいてワクチンの開発を開始**
  - **国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の公募研究開発課題「新型コロナウイルス感染症に対するワクチン開発(企業主導型)」に採択**
  - **既存のプラットフォームを用いて不活化ワクチン<sup>(※1)</sup>を開発**
  - **現在保有している新型インフルエンザワクチン用の生産設備(5,700万人分の生産が可能)の活用の可能性も併せて検討**
  - **国立感染症研究所、東京大学医科学研究所、医薬基盤・健康・栄養研究所と協業**
  - **2020年度に非臨床試験を終了、その後臨床試験を開始予定**

※1 不活化ワクチンとは、大量に培養されたウイルスや細菌からウイルス粒子や細菌の菌体を集めて精製した後、加熱やホルマリン等の薬剤を用いて処理をし、感染力や毒力をなくした病原体やその成分で作ったワクチン。

## 参考資料：財務データ



**2019年度**

# 2019年度 連結営業利益増減分析



(億円)	連結	食品	医薬品	他
18年度	983	847	142	△6
売上増減	+75	+56	+19	—
薬価改定	△35	—	△35	—
原価の変動	△42 <sup>(*1)</sup>	△23	△19	—
経費等の削減	△1 <sup>(*2)</sup>	△20	+19	—
その他(子会社損益含む)	+47	+13	+33	+0
19年度	1,027	873	159	△6

\*1: 主な内訳…【食品】国内乳価△20、包材△4、その他+1

【医薬品】在庫評価替えによる差異△32、原価低減+13

\*2: 主な内訳…【食品】拡売費・宣伝費増△19、物流費増△8、その他+7

【医薬品】棚卸廃棄損の減少+12、その他+7

(億円)		18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績		
					前年同期比	計画比
発酵 デ イ リ ー	売上高	3,301	3,318	3,279	△0.7% △22	△1.2% △39
	営業利益	478	488	484	+1.2% +5	△0.8% △4
加 工 食 品	売上高	1,765	1,780	1,784	+1.1% +18	+0.2% +3
	営業利益	82	92	83	+1.9% +1	△9.1% △8
菓 子	売上高	1,222	1,312	1,212	△0.8% △9	△7.6% △99
	営業利益	204	219	190	△7.0% △14	△13.3% △29

- 発酵デイリー:プロバイオ、ヨーグルトの減収や原材料コストアップを「ザバスミルク」の伸長や価格改定などでカバーし増益
- 加工食品:アイスクリームの減収を好調のチーズの増収や価格改定などでカバー
- 菓子:チョコレートは増収だが、グミ、ガムの減収や販促費の増加により減益

(億円)		18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績		
					前年同期比	計画比
栄養	売上高	851	883	906	+6.4% +54	+2.6% +22
	営業利益	129	133	157	+21.2% +27	+18.4% +24
海外	売上高	471	534	484	+2.6% +12	△9.3% △49
	営業利益	12	12	16	+34.4% +4	+30.7% +3
その他 国内子会社	売上高	2,953	3,070	2,828	△4.2% △124	△7.9% △242
	営業利益	38	43	35	△6.7% △2	△17.6% △7

- 栄養:スポーツ栄養、乳幼児ミルクなどが好調に推移し増収増益
- 海外:米国子会社や中国子会社が好調に推移し増収増益
- その他国内子会社:物流小会社等の減収により減益

(億円)	18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績	前年同期 増減率	通期計画 増減率
ヨーグルト	849	906	844	△0.6%	△6.9%
明治ブルガリアヨーグルト	788	788	761	△3.5%	△3.4%
プロバイオティクスヨーグルト	1,129	1,142	1,109	△1.7%	△2.9%
牛乳類	1,083	1,048	1,135	+4.8%	+8.2%
明治おいしい牛乳	562	574	579	+3.1%	+0.8%
チーズ	366	373	374	+2.4%	+0.5%
明治北海道十勝チーズ	137	153	147	+7.0%	△3.9%
アイスクリーム	451	449	444	△1.5%	△1.3%
チョコレート	954	1,041	971	+1.8%	△6.7%
栄養食品	552	558	587	+6.4%	+5.3%
スポーツ栄養	197	210	205	+3.9%	△2.3%

(億円)	食品全体	発酵 デューリー	加工食品	菓子	栄養	海外	その他 国内子会社	全社 共通費	
18年度通期 営業利益	847	478	82	204	130	12	38	△98	
前年増減額	売上増減	+56	+31	+15	△7	+18	△1	—	0
	原価の変動	△23	△14	△4	△2	△5	+2	—	0
	経費等の増減	△20	△16	△10	△5	+13	△2	—	△1
	その他 (子会社損益など)	+13	+5	+0	△1	+2	+5	△3	+4
19年度通期 営業利益	873	484	83	190	157	16	35	△94	

(億円)		18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績		
					前年同期比	計画比
国内	売上高	1,306	1,573	1,418	+8.5% +111	△9.9% △155
	営業利益	99	113	96	△2.6% △2	△14.5% △16
海外	売上高	410	445	435	+6.1% +24	△2.4% △10
	営業利益	21	21	27	+27.9% +5	+25.1% +5
KM バイオロジクス	売上高	312	395	404	+29.5% +92	+2.5% +9
	営業利益	34	35	38	+12.8% +4	+11.4% +3

- 国内:ワクチン販売により増収するも、リフレックスの減収や薬価改定の影響により減益
- 海外:海外子会社の増収に加え、インド子会社ののれん償却費の減少により増益
- KMバイオロジクス:ヒト用ワクチン、血漿分画製剤ともに順調に推移し増収増益

(億円)	18年度 実績	19年度 通期計画	19年度 実績		
				前年同期 増減率	通期計画 増減率
<b>国内医療用医薬品(Meiji Seika ファルマ単体実績)</b>					
シクレスト	37	77	43	+17.2%	△43.7%
ピラノア	74	90	72	△3.6%	△19.7%
リフレックス(GE含む)	—	123	86	△49.0%	△30.0%
メイアクト(GE含む)	—	57	53	△14.3%	△5.7%
タゾピペ	52	58	72	+38.4%	+25.3%
インフルエンザHAワクチン	—	143	148	+277.2%	+3.5%
<b>KMバイオロジクス(単体実績)</b>					
ヒト用ワクチン計	219	282	266	+21.3%	△5.8%
血漿分画製剤計	55	68	79	+43.3%	+16.8%

# 2019年度 連結PL



(億円)	19年度 実績	前年同期比	主な内容
売上高	12,527	△0.1% △16	— (詳細はP38-44参照)
営業利益	1,027	+4.4% +43	— (詳細はP38-44参照)
営業外収益	49	+28.5% +10	・受取保険金(+12)
営業外費用	43	+71.8% +18	・持分法による投資損失(+4)
経常利益	1,033	+3.6% +36	—
特別利益	20	△84.9% △114	・負ののれん発生益(△65) ・固定資産売却益(△53)
特別損失	76	△59.0% △109	・減損損失(△98) ・貸倒引当金繰入額(+10)
税金等調整前純利益	977	+3.3% +31	—
法人税等	279	△9.6% △29	・法人税、住民税及び事業税(△55) ・法人税等調整額(+25)
非支配株主に 帰属する純利益	24	+39.9% +6	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	673	+8.8% +54	—

# 2019年度 連結BS



(億円)	20年3月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	4,168	△1.1% △45	・受取手形及び売掛金(△222) ・現金及び預金(+120) ・商品及び製品(+52)
固定資産	5,817	△0.2% △9	・投資有価証券(△89) ・建設仮勘定(△83) ・建物及び構築物(+152)
資産合計	9,986	△0.5% △55	—
流動負債	2,565	△12.0% △349	・支払手形及び買掛金(△131) ・未払法人税等(△88) ・短期借入金(△27)
固定負債	1,445	△4.9% △74	・長期借入金(△68) ・繰延税金負債(△25) ・退職給付に係る負債(+15)
負債合計	4,010	△9.6% △424	—
株主資本	5,536	+9.1% +460	・利益剰余金の増加(+457)
その他の包括利益 累計額	90	△54.0% △106	・その他有価証券評価差額金(△62) ・退職給付に係る調整累計額(△28)
非支配株主持分	348	+4.5% +14	—
純資産合計	5,975	+6.6% +369	—
有利子負債	1,067	△8.3% △96	・長期借入金(△68) ・短期借入金(△27)
自己資本比率	56.4%	+3.9pt	—

## 2019年度 連結CF、株主還元



(億円)	19年度 実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	1,141	+20	・売上債権の減少(+214) ・仕入債務の減少(△134) ・減損損失(△98)
投資キャッシュフロー	△708	+293	・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出(+321)
フリーキャッシュフロー	432	+313	—
1株あたり配当金	150円	+10円	

**2020年度**

# 2020年度 連結計画



(億円)

		通期	前年同期比
連結	売上高	12,530	+0.0% +2
	営業利益	1,100	+7.1% +72
	経常利益	1,110	+7.4% +76
	親会社株主に帰属する四半期純利益	695	+3.2% +21
食品	売上高	10,414	Δ0.8% Δ81
	営業利益	930	+6.5% +56
医薬品	売上高	2,123	+3.9% +79
	営業利益	180	+12.6% +20

(億円)

		通期	前年同期比			通期	前年同期比
発酵 デリー	売上高	3,214	△2.0% △64	海外	売上高	540	+11.6% +56
	営業利益	544	+12.4% +60		営業利益	17	+7.0% +1
加工 食品	売上高	1,808	+1.3% +23	国内 その他 子会社	売上高	2,687	△5.0% △140
	営業利益	92	+10.6% +8		営業利益	42	+19.7% +7
菓子	売上高	1,238	+2.1% +25	全社 共通費	売上高	—	—
	営業利益	197	+3.8% +7		営業利益	△106	— △11
栄養	売上高	924	+1.9% +17				
	営業利益	141	△10.2% △16				

(億円)		通期	
		通期	前年同期比
国内	売上高	1,453	+2.5% +35
	営業利益	66	Δ31.1% Δ30
海外	売上高	474	+9.1% +39
	営業利益	58	+113.5% +30
バイオロジクス KM	売上高	433	+7.0% +28
	営業利益	40	+2.6% +1
修正・消去	売上高	Δ238	— Δ23
	営業利益	15	— +18

# 2020年度 連結営業利益増減分析



(億円)	連結	食品	医薬品	他
19年度実績	1,027	873	159	△6
売上増減	+67	+28	+39	—
薬価改定	△59	—	△59	—
原価の変動	△27 <sup>(*1)</sup>	△11	△16	—
経費等の削減	+54 <sup>(*2)</sup>	+27	+27	—
その他(子会社損益含む)	+38	+13	+30	△4
20年度計画	1,100	930	180	△10

\*1: 主な内訳…【食品】原材料調達コスト△20、商品政策・効率化+9

【医薬品】在庫評価替えによる差異△35、原価低減+19

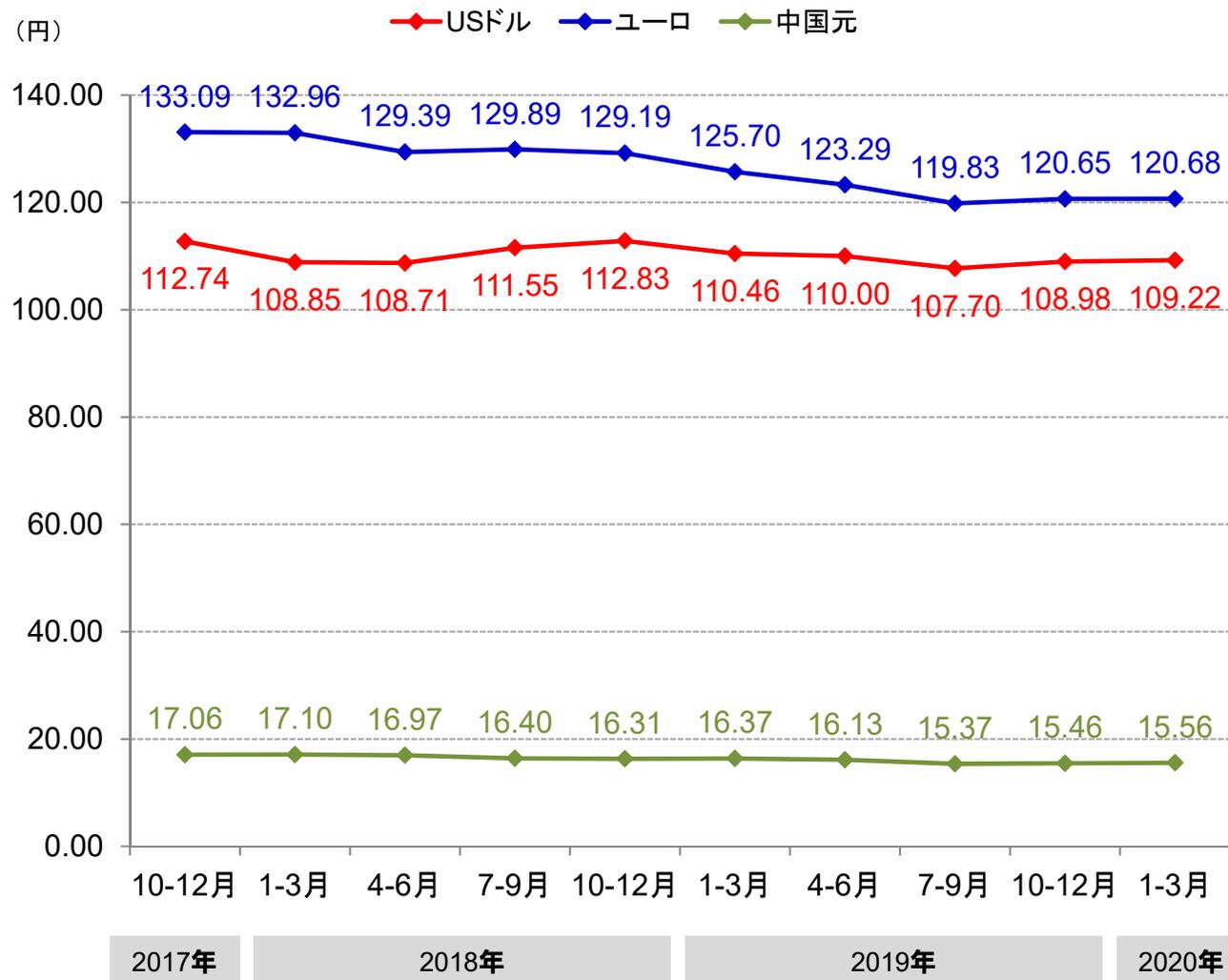
\*2: 主な内訳…【食品】拡売費・宣伝費減+40、物流費増△11、その他△2

【医薬品】普及費減+9、その他+18

# 主要通貨と当社平均レート



## 主要通貨と当社平均レートの推移



## 20年度計画の為替前提

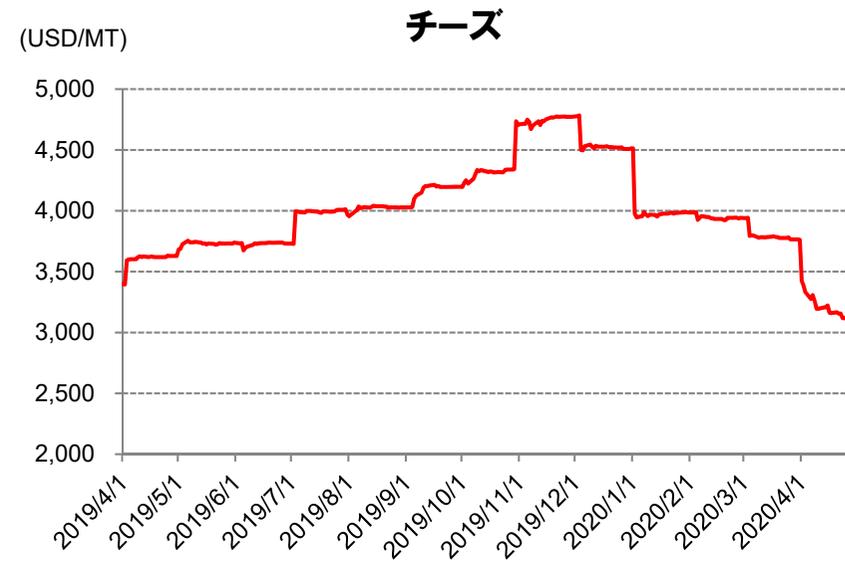
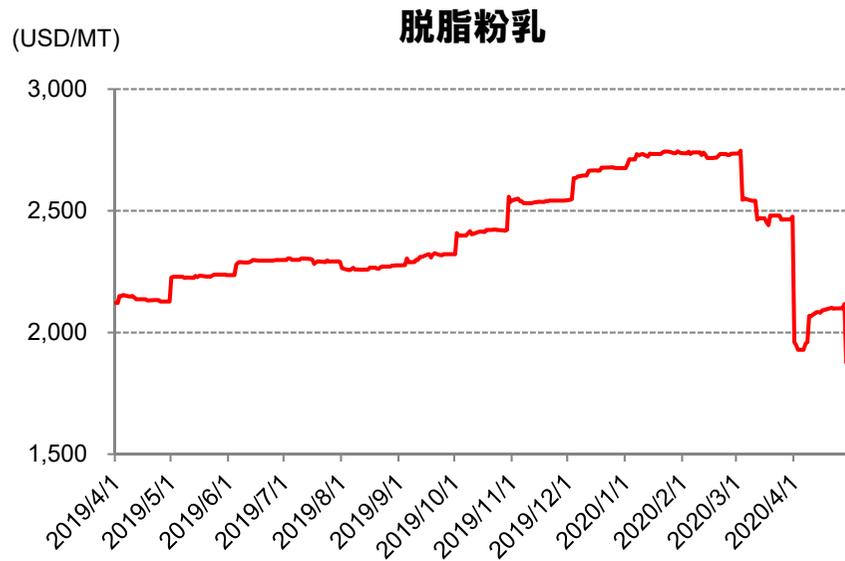
USD	110円
ユーロ	120円
中国元	15円

## 2020中計の為替前提

USD	食品 115円 薬品 110円
ユーロ	食品 125円 薬品 120円
中国元	食品・薬品 16円

**参考資料:トピックス**

# 主要輸入原料相場の動向



# 開発パイプライン①



現在のパイプライン(◆自社創製)		19年度	20年度	21年度
感染症	ME1111 【爪真菌症治療薬】 ◆	PhaseII		
	ME1100 アルベカシン 【院内感染肺炎/人工呼吸器関連肺炎治療薬】 ◆	PIb (海外)		
	OP0595 ナキュバクタム 【β-ラクタマーゼ阻害薬】 ◆	PI併用		
中枢神経系	ME2125 サフィナミド 【パーキンソン病治療薬】 ※	申請 → 承認		
	ME2112 ジブラシドン 【統合失調症治療薬】	PhaseIII		
その他	HBI-8000 ツシジノスタット 【再発・難治性成人T細胞性白血病/リンパ腫治療薬(ATLL)】	PhaseII	申請	承認
	HBI-8000 ツシジノスタット 【再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫治療薬(PTCL)】	PhaseII		
	SP-02L ダリナパルシン 【再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫治療薬(PTCL)】	PhaseII	申請	
	DMB-3111 【トラスツズマブ(ハーセプチン バイオ後続品)】	(PI終了)		
	DMB-3115 【ウステキヌマブ(ステラール バイオ後続品)】		PhaseI (海外)	

# 開発パイプライン②

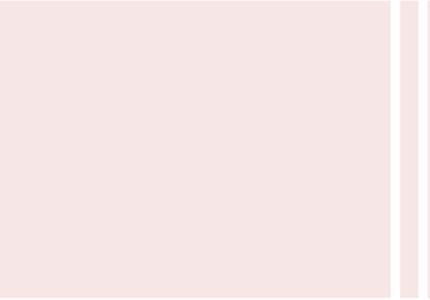


現在のパイプライン(◆自社創製)		19年度	20年度	21年度
ヒト用ワクチン	KD-370 【百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型による感染症の予防】	Phase III		
	KD-382 【デング熱の予防】	Phase I (海外)		
	KD-404 【インフルエンザの予防】	Phase I/II		
血漿分画製剤	KD6-71 【慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチーを含む)の筋力低下の改善用】	申請	承認	
	KD5-71 【視神経炎(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る)(希少疾病用医薬品)】	申請	承認	
	KD-371 【顕微鏡的多発血管炎における神経障害の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る)(希少疾病用医薬品)】	Phase III		
	KD2-305 【血液凝固第VIII因子又は第IX因子に対するインヒビターを保有する患者の出血傾向の抑制】	Phase II/III		申請

# 開発パイプライン③



現在のパイプライン(◆自社創製)		19年度	20年度	21年度
農薬	ME5382【殺虫剤/Flupyrimin】◆	申請 (海外)	登録	→
	ME5343【殺虫剤/Afidopyropene】BASF社と共同開発◆ <small>(MeijiSeikaファルマと北里研究所との共同研究で発見)</small>	登録 (海外)		→
	ANM-138【殺虫剤/Flometoquin】日本化薬と共同開発◆	登録	登録 (海外)	→
	ME5223【殺菌剤/Fenpicoxamid】Corteva Agriscience社と共同開発◆	登録 (海外)		→
動物薬	ME4129適応拡大【抗菌性注射剤】	申請	承認	
	ME4136【抗菌性注射剤】	申請	承認	
	ME4137【抗菌性注射剤】	申請		承認
	ME4406【飼料添加物】		申請	→
	ME4204適応拡大【経口駆虫剤】		申請	承認
	ME4624【ワクチン】	申請	承認	
	KD-390【鶏用ワクチン】	申請	承認	
	KD-377【豚用ワクチン】	申請	承認	
	KD-386【豚用ワクチン】	申請		承認



**meiji**

